

長崎東高校ベラルーシ共和国派遣団の表敬訪問

ベラルーシ共和国は原発事故の影響を受けた国の1つであり、東日本大震災を契機に、福島県・宮城県の生徒との交流が続けられてきました。そのような中、平成30年9月、ベラルーシ共和国駐日大使が県立長崎東高等学校を訪問されました。その際、世界の「平和と共栄」を目指しグローバル人材を育成する同校の取組に感銘を受けた駐日大使から交流推進の提案を受け、ベラルーシ共和国訪問が実現しました。

そして、7月17日（水）、訪問を前に同校の派遣団が上田副知事を表敬訪問しました。

表敬訪問の様子



決意表明 きやま 木山 ちかと 慈斗 さん（国際科2年） ※一部抜粋

私たち5名は、日本・ベラルーシ友好派遣団の一員として、12日間ベラルーシを訪問します。今回、私たちが招待を受けた背景には、長崎は原子爆弾で、ベラルーシはチェルノブイリ原発事故で放射能の影響を受けた過去があります。現地の方々との交流を通して、長崎の被爆の実態や平和で安全な世界を実現するための私たちの取組を、少しでも知っていただきたいと思っています。また、東高はスーパースクール指定校であり、私たち国際科はそれぞれの班での課題研究を進めています。今回のベラルーシへの派遣により、ますます視野が広がると思います。この経験を今後の探究活動やこれからの人生に生かしていきます。貴重な経験の場を与えていただき、ありがとうございます。

上田副知事激励のこたば（一部抜粋）

決意表明をお聞きして、皆さんが世界の平和を希求する気持ちを持って、グローバルな課題解決学習に日々取り組んでいることをありがたく思います。また、本県の代表として、皆さんを送り出すことができることを、心から嬉しく思っています。

ベラルーシ共和国は、チェルノブイリ原発事故で大きな被害を受けた国です。被爆地長崎で育った皆さんと現地の方々がお話をする中で、考えや思いを共有できるだろうと思います。皆さんの若い五感をフルに働かせて、いろいろなものを吸収し、国際的視野を身に付け、交流の絆を作っていたいただきたいと思います。さらに、一緒に行かれる他県の皆さんとも楽しく話をしつつ、現地の方々から多くのことを教えていただき、ぜひ何かを掴んで帰ってきてください。

長期にわたる研修ですので、体調管理をしっかり行っていただくとともに、派遣団の活動の成功を心から願っています。皆さん、頑張ってきてください。



- 日本・ベラルーシ友好派遣団 2019
宮城県・福島県から40名、北海道・岡山県・広島県・長崎県から各5名
計60名
- 派遣期間 7月24日（水）～8月4日（日） 12日間

今回のベラルーシ共和国派遣にあたり、長崎東高校の校内で21名の生徒の応募があったそうです。その中から選抜された代表5名の皆さんです。「日頃取り組んでいる課題研究の成果を十分に生かしたい」、「交流の中で、多くのことを学びたい」という、皆さんの熱意が感じられました。

ぜひ、被爆地長崎の歴史や実態、そして平和の尊さを現地の皆さんに伝えていただきたいと思います。また、現地の学生との交流も予定されているとのことですので、多くのことを学び、吸収してきてください。12日間に及ぶ派遣団の皆さんの活動の大いなる成功を祈念いたします。

令和元年7月17日

長崎県教育委員会
教育長 池松 誠二